

小・中学校 総合的な学習の時間

※以下「総合」と記載

1. 総合における学習評価の基本的な考え方

総合においては、学習指導要領が定める目標を踏まえて各学校が目標や内容を設定するという特質から、学習評価についての観点も各学校が設定するという枠組みのままとなっています。その際、目標や内容について、新学習指導要領で示されている三つの柱で表すことになっているため、総合の「評価の観点」については、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の三観点に整理されます。

なお、指導要録については、これまでどおり実施した「学習活動」、「評価の観点」、「評価」の三つの欄で構成し、その児童（生徒）のよさや成長の様子などを顕著な事項を文章で記述することが考えられます。

2. 総合における内容のまとめ

総合における「内容のまとめ」とは、目標を実現するにふさわしい探究課題と探究課題の解決を通して育成をめざす具体的な資質・能力の2つによって構成され、各学校独自で作成されるものです。

〈内容のまとめ作成（例）〉

目標を実現するにふさわしい探究課題	探究課題の解決を通して育成をめざす具体的な資質・能力		
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
身の回りの高齢者とその暮らしを支える人々（福祉）	① 高齢者の暮らしを支える取組みや人々の思いを理解する。 ② 高齢者とその暮らしについて学んだことが自分の生活と深く関わっていることを理解する。 ③ 調べたり体験したりして収集した情報と情報との関係について、図や文章でまとめる方法がわかる。	① 地域の高齢者の暮らしから課題をつくり、解決に向けて自分にできることを考えることができる。 ② 課題解決のために必要な情報を、手段を選択して収集することができる。 ③ 必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり関係付けたりしながら解決に向けて考えることができる。 ④ 伝える相手や目的に応じて、自分の考えをまとめ、適切な方法で表現することができる。	① 活動を通して、自分と身の回りの高齢者とのかかわりを見直そうとする。 ② 体験を通して得た知識や自分と違う友だちの考えを生かしながら、協働して課題解決に取り組もうとする。 ③ 課題解決の状況を振り返り、あきらめずに取り組もうとする。

3. 総合の学習評価の事例

内容のまとめで示した「探究課題の解決を通して育成をめざす具体的な資質・能力」の文末を変化させることで評価規準とすることが可能となります。内容のまとめを踏まえた学習評価の事例を、第6学年の単元で説明します。

例 第6学年「地域の絆を再生しよう」（福祉）

単元の目標は、A 具体的な学習活動 B 知識及び技能 C 思考力・判断力・表現力等 D 学びに向かう力、人間性等 の4つの視点で設定をする。

(1) 単元の目標の設定

A 少子高齢化や核家族化を背景に、地域に暮らす高齢者の生活課題の解消に向けて活動することを通して、B 高齢者の暮らしを支える取組みや人々の思いに気付き、C 高齢者の暮らしを支える「地域の茶の間（地域の人々が集い交流できる場）」の在り方について考えるとともに、D 学んだことを自らの生活や行動に生かそうとする。

(2) 単元の評価規準の設定

単元の目標と「内容のまとめごとの評価規準」を踏まえて作成します。

「知識・技能」の評価は、探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識や技能を身に付け、課題に関わる概念を形成（他の学習や生活の場面でも活用できる程度の概念を形成）し、探究的な学習のよさを理解しているか（様々な生活場面も含めて子ども自らが探究的な学習を進めるようになることが、よさを理解していること）を評価する。

「思考・判断・表現」の評価は、探究的な学習の「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の4つの視点を評価する。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価は、課題解決に向かう主体的な態度と、多様な考えを生かして新たな知を創造しようとする協働的な態度の形成を基盤として、粘り強く取り組もうとする側面と、自らの学習を調整しようとする側面の二つを見とる。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①高齢者のくらしを支える取組みや人々の思いを基に、「地域の茶の間」は、地域の人と思いを共有し、協働でつくことで持続可能なものになることを理解している。 ②高齢者とその暮らしについて学んだことが自分の生活と深く関わっていることを理解している。 ③「地域の茶の間」を開催したり、モデルケースを調査・体験したりして収集した情報と情報との関係について、図や文章でまとめる方法がわかっている。	①地域の高齢者とその暮らしについて、理想との隔たりから課題をつくり、解決に向けて自分にできることを考えている。 ②高齢者の孤独の解消のために必要な情報を、手段を選択して収集している。 ③持続可能な「地域の茶の間」をつくるために必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり関係付けたりしながら解決に向けて考えている。 ④伝える相手や目的に応じて、自分の考えをまとめ、適切な方法で表現している。	①活動を通して、自分と身の回りの高齢者とのかかわりを見直そうとしている。 ②「地域の茶の間」の体験を通して得た知識や自分と違う友だちの考えを生かしながら、協働して課題解決に取り組もうとしている。 ③課題解決の状況を振り返り、あきらめずに高齢者の孤独の解消に向けて取り組もうとしている。

どの時間に、どのような評価方法でどの評価を行うのか明記しておく。

(3) 単元の指導と評価の計画 (全 50 時間)

次 (時間)	ねらい・学習活動	知	思	態	備考
第1次 高齢者のくらしを支える「地域の茶の間」をつくろう (15 時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の高齢者とその暮らしについて調べ、高齢者の困りごとに気づき、理想と現実の隔たりから学級全員で取り組む課題を設定する。 ・必要な情報を調べながら・・・ ・学習課題に照らし・・・ ・計画を修正・改善しながら・・・ 	①	①	①	知：作文シート 思：発言内容・作文シート 態：発言内容・作文シート
第2次 持続可能な「地域の茶の間」のモデルケースを調査・体験しよう (10 時間)		省略			
第3次 高齢者だけではなく地域の人に必要とされる「地域の茶の間」をつくろう (15 時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・概念的知識を基に、課題を再設定する。 ・必要な情報を調べながら、「地域の茶の間」の計画を・・・ ・学習課題に照らし、「地域の茶の間」の計画を修正・・・ ・計画を修正しながら複数回の「地域の茶の間」を開催する。 		② ④	②	思：発言内容・行動観察 態：発言内容・行動観察 思：行動観察
第4次 地域との協働で持続可能な「地域の茶の間」をつくろう (10 時間)		省略			

単元全体で評価を行うので、全ての時間ですべての評価規準をみるものではない。

具体的な子どもの状況を想定した評価例【知識・技能】

○他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念を理解しているかを見取る「概念的知識の形成」の評価例

第2次の「地域の茶の間」のモデルケースを体験・調査した後の振り返りとして、学習課題の解決のために大切なことは何かを問い、それについて話し合う言語活動を設定した場面でのA児の作文シート

私は、「地域の茶の間」を地域の人と私たちで協力して作ることが大切だと思います。
けれど、「地域の茶の間」を地域の人と一緒にやるには、まず、地域の人に必要とされないといけないと思います。

A児は、以前の作文シートからは、「(高齢者の立場に立って) どういうふうに和めるだろうかを考えることが大切だ」と考えていた。話し合いで他の児童の考えや意見を聞いて、「『地域の茶の間』は、高齢者やそのくらしを支える地域の人と思いを共有し、協働でつくことで持続可能なものとなること」を概念的知識として形成していると評価できる。

○様々な生活場面も含めて子ども自らが探究的な学習を進めるよさを理解した「探究的な学習のよさ」の評価例

単元の終末において自分の振り返りを作文にまとめた場面でのB児の作文シート【抜粋】

以前は人見知りで、近所のお年寄りといさづつするだけで顔をそらしていました。けれど、今は年代の違うお年寄りにも顔をそらさずにあいさつができるようになりました。お年寄りの趣味や好きなことがお茶の間の学習をしてわかり、お年寄りとお話することが多くなりました。
以前は、祖母の家に行っても、両親とお話することが多かったです。でも、お年寄りのさみしさなどが分かってから祖母と自然と話せるようになりました。

自然にコミュニケーションをとることができるようになったことを自己の成長として実感していることが見取れる。さらに、その成長は「茶の間の学習をして」という記述から、本学習を通じてのものであると捉えることができる。このことから、探究的な学習のよさを理解していると評価できる。